

Advanced Use of the Internet in Research

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/25141

研究用インターネット環境の整備

Advanced Use of the Internet in Research

金沢大学医薬保健研究域保健学系病態検査学講座

大 竹 茂 樹

私の朝はMacintoshの軽快な起動音と共に始まる。

起きてすぐMacを起動して、メールの整理や返事をするのが私の朝一番の仕事である。「先生は朝早くから大学に出ていますね。」とよく言われることがある。これは朝の早い時間に自宅から送信したメールのアドレスが自宅ではなく大学のアドレスになっているからである。大学内のメールサーバに届いたメールは世界中どこに居ても受信可能なことはよく知られたことだが、学外から学内の送信用サーバを利用できることは意外と知られていない。出張先や自宅で電子ジャーナルの文献を読みたくなることもある。現在ではインターネットを効率よく利用することは研究活動にとって欠かせないが、大学内と大学外にかかわらず、研究用のインターネット環境を準備しておくことも重要である。金沢大学はこのような要求に対して様々なサービスを提供している。そんな金沢大学のインターネット環境について、学外からの利用も含めて触れてみたい。

金沢大学IDなるものをご存知でしょうか。金沢大学の教職員と学生は全員このIDが決められている。最近導入されたICチップ付きの金沢大学職員証の裏面に職員番号(学生は学籍番号)と共に記載されている。このIDは生涯IDであり、金沢大学を退職または卒業後も使い続けることができるように計画されている。学生教育のインターネット上の総合窓口であるアカンサスポータルや図書館にログインする際に使用されるIDである。一方、(金沢大学)ネットワークIDはこれとは別に総合メディア基盤センターから発行される金沢大学のネットワーク環境を利用するためのIDである。金沢大学の教職員(非常勤講師, 客員研究員, 研究協力員などの方を含む)はオンラインでこれを取得し利用することができる。ネットワークIDを取得すると、学内の無線LAN, メールアドレス(総合メディア基盤センター管理のメールサーバ), VPN(Virtual Private Network)通信, 学外からのメール送信(smtp-auth.kanazawa-u.ac.jpの利用)などが可能になる。

電子メールの利用は現代社会では欠かせないものになっている。金沢大学では、メールアドレス(受信用サーバ)は部局(学系や講座単位)管理のものと大学(総合メディア基盤センター)管理のものとの二本立てで運用されている。医学系ではmed.kanazawa-u.ac.jpが各講座の管理しているサーバを使用している。先のネットワークIDを取得すると総合メディア基盤センター管理のメールサーバであるstuff.kanazawa-u.ac.jpを利用できるので、第二メールアドレスまたは予備のサーバとして利用することが可能である。講座管理のメールサーバはアドレスの配布などで便利な反面、セキュリティや障害についての対策が不十分だと思われるので、大学管理のメールサーバの利用を促進すべきであると考えている。これらの受信用メールサーバの管理者はメールをサーバに残さないように要請している。私はこれに反して1週間程

度メールをサーバに残して置くことを勧めている。こうすると大学でも、自宅でも、出張先でも同じメールを受信することができるので、重要なメールの見落としを防ぐことができ、パソコンの障害時に備えたback upとしても利用できる。送信用サーバにはsmtp.kanazawa-u.ac.jpを指定することが要請されているが、これはウイルス対策やspamメール対策について重要である。学外から利用する場合はsmtp-auth.kanazawa-u.ac.jpを指定すると良い。ネットワークIDでの認証が必要であるが、世界中どこからでも利用可能である。

最近ほどの研究機関も電子ジャーナルの契約を導入しており、所属機関が契約している医学雑誌はオンラインで読めるようになってきている。金沢大学でも現在6619タイトルもの電子ジャーナルが利用可能であるが、われわれの負担している費用も一人あたり10万円を超えており、負担に見合う利用を図る必要がある。金沢大学附属図書館の医学系分館のホームページからはPubMedへの金沢大学独自のリンクが張られており、検索した文献が金沢大学の電子ジャーナルリストに含まれているか否かの情報も表示される。契約済みジャーナルであれば文献へのリンクが張られており、画面表示で全文を読むことも、PDF書類としてダウンロードして文献を入手することも可能である。私はパソコンのハードディスクにこうした文献を整理し、保存しているので、紙の文献を整理するファイリングケースは使用していない。近日中にはiPadを入手して文献の整理、保管を行うことを楽しみにしている。

電子ジャーナルを自宅や出張先で利用するにはVPN通信とプロキシサーバの利用設定が必要であるが、意外とこのことを知らない研究者が多い。VPN通信については総合メディア基盤センターで紹介しているし、web browserのプロキシサーバの設定方法は附属図書館の電子ジャーナルのページに細かく紹介されているのでご覧頂きたい。この方法を覚えれば、インターネットが利用できれば世界中どこにいても必要な文献を見つけることができるので、非常に便利である。

ファイル送信サービスも便利な機能である。メールに添付するには容量が大きすぎるデータを共同研究者とやり取りすることができる。通信にはhttps(暗号化通信のプロトコル)が利用できるので、セキュリティの面からも安心である。金沢大学からの送信はもちろん、学外の研究者からも受信することができる点も便利である。学外(自宅や出張先)から学外の共同研究者宛にファイル送信サービスを利用するには、VPN通信を併用しなければならない点は注意が必要である。

論文の投稿もインターネットから行われ、採否の決定もその後の校正などのやり取りもメールなどで行われる時代である。インターネットの利用方法に精通することは研究環境の整備に繋がることを強調したい。